

自治体の課題、現状

- ・少子化に伴う生徒数や教員数の減少により、質の高い活動に必要な部員数の確保や部活動数の維持が困難な状況となっている。
- ・早期に地域展開を実現する必要がある、令和5年度から先行競技による実証事業に着手し、教育的側面を継承しつつ持続可能な運営体制の構築を進めてきた。
- ・参加生徒のニーズに合わせた活動内容の充実が課題である。併せて、希望する教職員の兼職兼務による指導を含めた、地域クラブ活動における指導者の質と量の確保が課題となっている。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	8校 含義務教育学校1校	全生徒数	3,129人
域内の部活動数	122部	実施した地域クラブ数	21クラブ
全体の指導者数	126人	全体の運営スタッフ数	127人
主な運営団体	行政主導で立ち上げた任意団体		
主な種目	軟式野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	20.2人/クラブ 希望する3年生は総体後も参加
参加会費	0円/年 ※移行期間	主な活動場所	公立中学校

地域移行関連の取組、成果

- ・コーディネーターが中心となり、行政と学校及び地域企業や団体等との連絡調整を進めてきたため、運営団体が核となり三位一体の改革が大きく漸進した。
- ・先行4競技において通年でのクラブ活動を継続することで、新たな課題が見えた反面、9年生の参加機会の拡大等新たな価値も創出することができた。
- ・指導者の複数名配置により安全と安心を確保した活動体制にするとともに指導者同士の交流により指導の質の向上にもつながった。

運営体制図



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 土浦市

自治体名：茨城県土浦市

担当課名：教育委員会指導課

電話番号：029-826-1111

本報告書は、スポーツ庁の「令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（運動部活動の地域移行等に向けた実証事業）」の一貫として、茨城県が実施した「令和6年度運動部活動の地域移行に向けた実証事業」の成果をとりとめたものです。

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	123 km ²
人口	142,114 人
公立中学校数	8 校 含義務教育学校1校
公立中学校生徒数	3129 人 含義務教育学校後期課程
部活動数	122 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

少子化に伴う生徒数の減少により、部活動部員数や教職員数も減少し、単独校での部活動維持が困難な状況となっている。土浦市の中学校生徒数は令和5年度で3,164人であり、10年間で約15%減少している。令和10年度には2,900人まで減少する見込みとなっており、平成10年度から比較すると30年間で約35%も減少する見込みである（途中、合併により一時的に増加した年度あり）。

令和6年度の部活動は市内8校で122部ある。部活動参加率は87%と高い割合ではあるが、部員不足のため単独での活動に支障をきたす部が複数校、複数部で見られるようになっており、生徒の活動機会の量的・質的確保が課題となっている。

学校現場においては、特に専門性のない競技等の部活動顧問になることでの心理的な負担が大きく、現状の指導体制を維持することは極めて困難であり、教職員の兼職兼務を含め、指導者が自分の希望する競技において指導できる体制の構築が必要である。

部活動種目	18種目 ※男女別のものも1種目としてカウント
部活動数	8校122部（8校123部）
参加者数	2629人（2750人）
参加率	84%（87%）

※R6.5月調査（ ）内はR5.5月
令和6年度土浦市立学校の部活動の状況



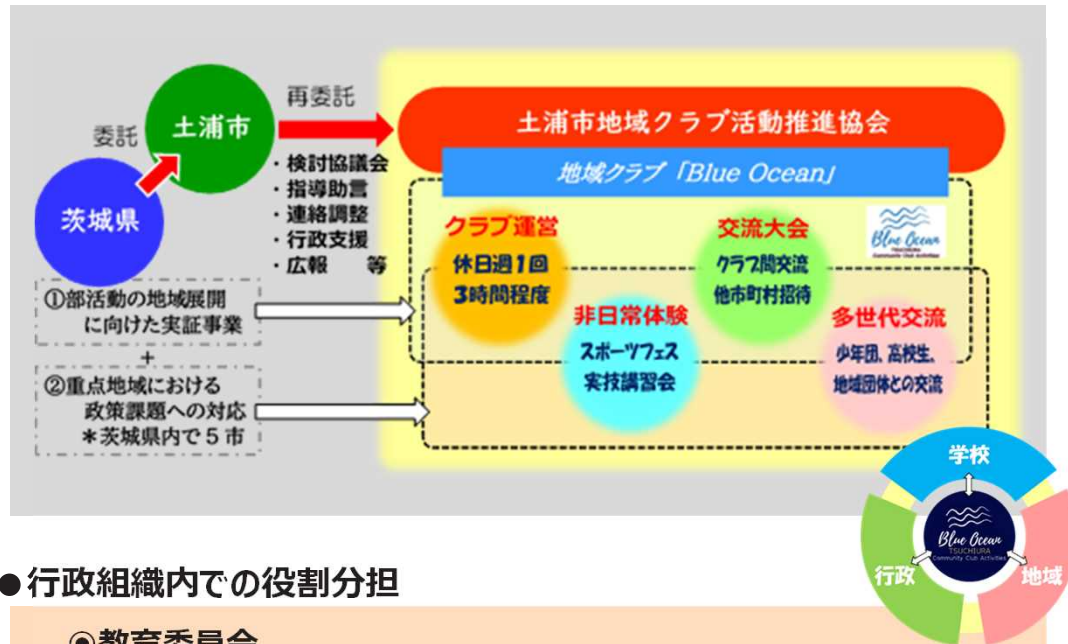
OH18年の合併によりH20は一時的に増加
OR10には、30年前のおよそ2/3となる可能性

30年間の土浦市の中学校生徒数推移

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- 部活動地域移行の制度設計、協議検討、運営団体及び学校等への助言、指導
- 部活動指導員配置を含む部活動数適正化に向けた取組
- 学校や中体連、地域企業等関係者との連絡調整及び広報活動

◎首長部局

- スポーツ少年団、スポーツ協会等との連絡調整
- 市体育施設等の貸出調整、減免措置
- 補助金やイベント後援などの運営団体に対する後方支援及び広報活動

年間の事業スケジュール

令和6年4月	新年度地域クラブ参加手続き 部活動指導員配置
令和6年5月	部活動改革検討協議会① 部活動改革プロジェクト推進委員会① Blue Ocean交流大会
令和6年6月	土浦市地域クラブ活動推進協会総会 指導者研修会 部活動改革プロジェクト推進委員会②
令和6年7月	部活動改革検討協議会②
令和6年8月	夜間クラブ活動実証（サッカー）
令和6年9月	部活動改革プロジェクト推進委員会③
令和6年10月	部活動改革検討協議会③ Blue Oceanスポーツフェス2024
令和6年11月	部活動改革プロジェクト推進委員会④ クリニック講習会
令和6年12月	部活動改革プロジェクト推進委員会 タスクフォース会議
令和7年1月	部活動改革検討協議会④ 新入生保護者説明会 アンケート調査
令和7年2月	部活動改革プロジェクト推進委員会⑤ 小学生見学会、少年団体験交流

※毎月1回 定例ミーティング（拠点リーダー・学校統括チーフ）

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	8 校	実施した地域クラブ総数	21 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		21 クラブ（35 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	126 人	全体の運営スタッフ数	127 人

②体験会やイベント等の開催実績

【Blue Ocean交流大会】

クラブ会員相互や他市町村の合同チーム等との交流や、日頃の練習の成果を発揮する機会の確保等を目的に、各競技ごとに交流大会を開催した。

令和6年5月25日（土） 軟式野球、バレーボール

令和6年5月26日（日） 軟式野球、サッカー、バスケットボール

※会場として、市体育施設を使用（年間の調整会議にて予約）

【クリニック講習会】

各競技の技術力を向上したり、競技の楽しさを実感したりすることを目的に、専門性の高い講師を招請して開催した。

令和6年11月9日（土） バスケットボール

令和6年11月10日（日） バレーボール

令和6年12月21日（土） サッカー ※高校サッカー部との交流も兼ねる

※会場として、市体育施設を使用（年間の調整会議にて予約）

【夏季夜間実証（熱中症対策）】

夏季の活動において、参加生徒の安全を確保しながら活動機会を確保するため、サッカーのナイター合同練習会を試験的に実施した。

令和6年8月24日（土）・25日（日） 17:00～20:00

会場：市体育施設（ナイター設備のあるグラウンド）

※8月24日（土）は集合後、雷雲の接近により中止

【Blue Oceanスポーツフェス2024】

多様なスポーツ体験機会の提供を通じて、多世代・他団体の交流機会を創出するとともに、地域にも部活動地域移行についての理解を深めてもらうための周知機会として、土浦市教育委員会と土浦市地域クラブ活動推進協会の共催で部活動地域移行をテーマに大規模なイベントを開催した。

令和6年10月14日（月・祝）スポーツの日 9:00～16:30

●主な内容

スポーツ教室（野球・サッカー・ラグビー・ハンドボール・ダンス）

スポーツ体験（バスケットボール・バレーボール・ボッチャ・フェンシング）

体力測定・適性診断

講演会（大学教授、高校野球監督、市教委）

ステージイベント（小学生の合唱・演奏、地域クラブ紹介、ソーラン節）

協賛企業ブース出展

キッチンカーコーナー

【小学生見学会及び少年団との交流】

小学6年生を主な対象に、クラブ活動の見学や会員との交流を通して地域クラブ「Blue Ocean」の活動内容について理解を深めてもらうため、見学会及び少年団との交流を実施した。

実施状況：2～3月に各クラブ2回程度

※少年団との交流は、団の要望により随時

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

③各クラブに関すること

運営団体	種目 ※新規のものは末尾に (新)を付ける	クラブ名	指導者数	延べ参加人数 平均参加人数	実施回数	実施時間帯	活動場所	実施期間	会費	大会参加方法
土浦市地域クラブ活動推進協会	軟式野球	Courage Epics Spirits Wish	26 人	2,771 人 18.4 人/1クラブ	【基本活動回数】 月 4 回 ※原則、土日の いずれか週 1 回	【基本活動時間】 午前 8:00~11:00 または 午後 13:00~16:00	学校施設 グラウンド または 体育館	R6/4/1 ～ R7/3/31	【想定金額】 活動費 2,000円/月 年会費 2,000円程度 ※現在は市財 源より補助金を 充当	原則：部活動 ※大会の要件 により地域クラ ブで参加可能 な大会について は一部、実証と して参加
	サッカー	Courage Nexus Spirits	22 人	2,454 人 28.0 人/1クラブ						
	男子 バスケットボール	Courage Epics Spirits Wish	21 人	2,609 人 18.5 人/1クラブ						
	女子 バスケットボール	Courage Nexus Spirits	14 人	1,163 人 11.0 人/1クラブ						
	男子 バレーボール	Courage Nexus Spirits	17 人	2,001 人 18.8 人/1クラブ						
	女子 バレーボール	Courage Epics Spirits Wish	20 人	3,621 人 25.5 人/1クラブ						

※延べ参加人数・平均参加人数は2月末日までの集計人数

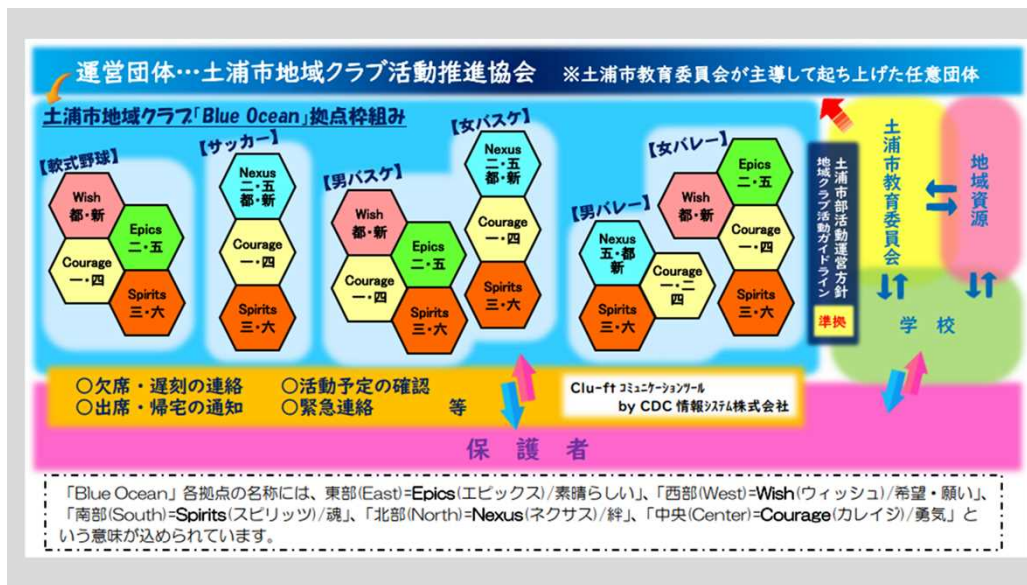
2.実証内容と成果

主な取組例

●土浦市地域クラブ「Blue Ocean」活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球、サッカー、男子バスケットボール 女子バスケットボール、男子バレーボール 女子バレーボール
運営団体名	土浦市地域クラブ活動推進協会
期間と日数	令和6年4月～令和7年3月 月4回程度（土・日いずれか1回）
指導者の主な属性	兼職兼務の教職員 ※部活動指導員含む
活動場所	市内中学校・義務教育学校
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	想定金額：26,000～33,000円 ※移行期間は0円（公金により充当）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

◆事務局（統括責任者）

役割：会員・指導員の管理、物品等の管理、スケジュール調整、連絡調整

◆クラブ拠点リーダー 21名

役割：定例ミーティングへの参加、スケジュール調整、クラブ活動管理

◆学校統括チーフ 8名

役割：定例ミーティングへの参加、学校との連絡調整

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

部活動改革検討協議会を継続して開催し、部活動の段階的な地域移行等の部活動改革の在り方について検討した。

下部組織として、市中体連関係者を構成メンバーとする部活動改革プロジェクト委員会を位置付け、学校現場の声を取り入れた具体的な方策等を検討した。

運営団体においては、毎月、各クラブの拠点リーダーや学校統括チーフを集めミーティングを実施した。

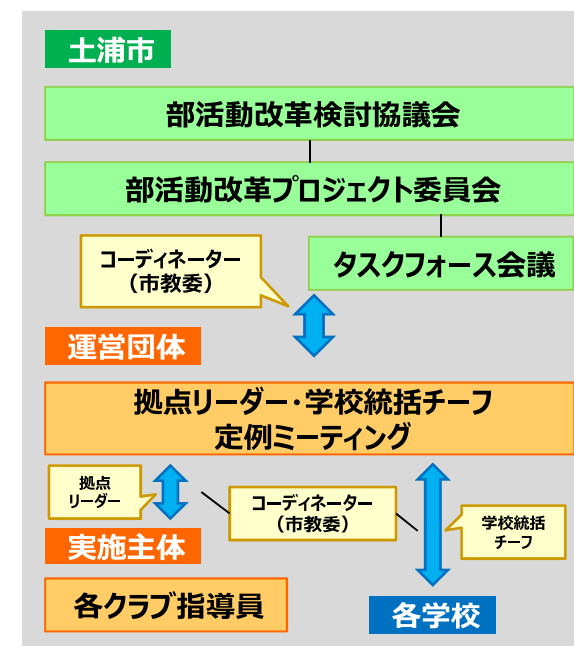
取組の成果

市としての方向性や各種課題に対する協議を行い、決定した方針に基づき、下部組織で具体的な諸課題への対応を検討することで、学校現場の声を取り入れながら、運営団体におけるクラブ運営を含む実証事業を展開してきた。

- ・部活動改革検討協議会 … 年5回開催
- ・部活動改革プロジェクト推進委員会 … 年5回開催
- ・追加競技に係るタスクフォース会議 … 1回

決定事項については、コーディネーターが中心となり運営団体との連絡調整や指導助言を行い、運営団体においてはリーダーとなる指導員が各クラブや学校との連絡調整をコーディネーターとともに行うことで、スムーズなクラブ運営ができた。

- ・定例ミーティング … 年10回開催（4,8月は未実施）



コーディネーターの具体的な動きの実績

土浦市部活動改革推進事業の一環として運営団体事務局業務にも携わることで、市教育委員会と運営団体、学校間の連絡調整の中心役となった。また、実施主体となる地域クラブBlue Ocean指導員の配置や調整についても主たる窓口となることでスムーズな活動が可能となった。

今後の課題と対応方針

競技種目を追加拡充していく際に、クラブ指導の方針や併存する学校部活動との連携の在り方についてのコンセンサスをどのように得ていくかが課題となる。各競技代表を交えたタスクフォース会議やクラブ代表者での定例ミーティングの内容や方法をさらに工夫していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

指導者は、運営団体の指導者人材バンクに登録した方の中からクラブとマッチングし必要な人数、委任している。各クラブに配置された指導員の中で調整し、都合のつく指導員2名（会員数により増の場合あり）が指導にあたる体制を構築する。指導者は3つのカテゴリーで募集し、経験や資格、熱意により多様な形で協力できるシステムとすることで、より多くの指導者が確保できるようにした。また、クラブ指導者を複数名配置することにより、指導員同士が指導方法を共有したり高め合ったりできるようにし、指導スキルの向上も図っている。

クラブ配置指導員

野球	19名/4クラブ	フリー指導員 7名
サッカー	20名/3クラブ	フリー指導員 2名
バスケ	27名/7クラブ	フリー指導員 8名
バレー	30名/7クラブ	フリー指導員 7名
巡回指導員 2名		
救護指導員 4名（主にイベント時に従事）		
※フリー指導員はクラブをまたぎ指導者が足りない際に従事		
※指導員は全員、事務局にてスポーツ安全保険に加入		

指導員3つのカテゴリー

資格要件や本人の希望によって、
カテゴライズし登録・委任及び配置

◎指導員（有償）
主たる指導者として指導

○ボランティア指導員（有償）
主たる指導者と指導・サポート

△ボランティアスタッフ（無償）
活動のサポートや見守り

取組の成果

指導者を3つのカテゴリーに分類し募集することで、高いレベルの資格等を有していないが、子どもたちのため、地域のために地域の一員として協力したいという方も登録できるようになり、少しずつ幅広い人材の確保への糸口が見出され、量的な確保の観点から成果が見られた。会員の保護者対象に行った地域クラブ活動満足度調査では、肯定的な回答の理由（複数回答）の中で「複数の指導者が見てくれるので安心」との回答が4番目に多く、安心・安全なクラブ活動という点で保護者から評価されたことが分かる。

また、クラブ配置指導員が複数名いる上、フリー指導員もいるため、指導回数が調整できる点は、兼職兼務で指導にあたる教職員の負担軽減につながった。とはいえ、現在は平日部活動が併存する移行段階ということもあり、多くの教職員や学校関係者に協力していただいている。今後は、持続可能なクラブ運営や子どもたちの活動への有益性、教職員の負担軽減の視点から、地域人材の割合を増やしていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

取組事項

指導者を委任するにあたっては、資格等の確認を行い、カテゴライズして指導員の委任をし、特に経験や資格の少ないボランティア指導員やボランティアスタッフが希望すれば将来的に指導員としても従事できるよう、主たる指導員と組み合わせるなど配慮して調整したうえで配置を行った。また、巡回指導員がクラブを定期的に巡回し、クラブ活動実施の課題や成果を共有したり、指導方法について助言指導したりすることにより、指導スキルの向上を図ることで持続可能なクラブ運営に向けての人材育成にも寄与している。さらに、指導者の質を高めるための研修機会として、協会主催の研修会にてコンプライアンスや指導方法に関する研修を開催したり、指導員代表者が集まるミーティングの際にミニ研修を実施したりした。

その他の指導者研修実績

拠点リーダー・学校統括チーフ定例ミーティングにおけるミニ研修
「熱中症の事故防止及び対応、スポーツ外傷の応急処置 など」
講師：土浦市地域クラブ活動推進協会理事
【開催日】 毎月第2水曜日を基本に開催（4,8月を除く）
【参加人数】 平均30人

※研修内容については、資料を全指導員に配付するとともに、代表者が各クラブで伝達

指導者研修会の開催内容

「ジュニア期における効果的・効率的なトレーニング」
講師：島田 真梨子 様（とちぎスポーツ医科学センター）
「指導者のための倫理ガイドライン」
講師：土浦市地域クラブ活動推進協会理事
【開催日】 令和6年6月8日（土）
【参加人数】 86人

受講者の声

自分の競技経験と部活動指導経験をもとに指導に当たっていたが、科学的な視点でトレーニング内容を考えたり、指導に当たったりすることはできていなかった。今後は、子どもたちの心と体の成長に合わせた適切で効果的な方法を意識して活動内容を工夫していきたい。

今後の課題と対応方針

多くの方が本業の傍ら指導員に携わっており、すべての指導者に様々な内容の研修を受けてもらうためには、定期的な指導者研修の機会を設けるだけでは都合により受講できない人が出てしまう。今後は、必要な内容をそれぞれのテーマごとに分けた動画教材等のオンデマンド配信により、個別に受講できるシステムの活用を検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

市教育委員会が主導して起ち上げた運営団体が計画的にクラブ運営を行うことができるよう、行政が支援しながら持続可能な体制づくりを進めてきた。また、学校との連携を図り、現場の実態や受益者の声も考慮しながら公益性の高い事業を目指すことで、地域企業や団体からの物的支援・人的支援を受けやすくし、協力体制の構築に努めた。

取組の成果

教育委員会が助言指導を行いながら、コーディネーターを中心に学校との連携を密に図ることで、併存する学校部活動と連動したクラブ活動を実施することができた。大会参加についてはまだ課題が残っているが、市中体連とも連携しながら大会参加の在り方を検討することができているため、参加生徒や保護者には一定の安心感をもっていた。また、地域の企業や団体にとっては、地域移行の取組に協力することを通して自分たちの持つ強みを社会貢献につなげることができるため、多くの企業・団体が協力に前向きであった。一方で、周知や協賛セールスの体制整備が途上であったため、企業側に十分なメリットを感じていただけなかった点も発見できたため、改善が必要である。

地域企業・団体の声

- 社会貢献につながるのぜひ協力したい
- 子育て世代との交流を通じて声が聴けてありがたい
- 次世代の人材育成に協力したい
- ▲もっと早く声をかけてくれれば協力できた
- ▲自分たちのPRにつながる場が少なかった

地域企業・団体の協力

イベント事業での企画・運営への協力 … JTB茨城南支店
地域クラブ運営・イベントへの後援 … 土浦商工会議所
イベント協力 … 土浦市スポーツ協会、筑波大学スポーツ局
イベント協賛 … 23社（団体）※物品提供等含む
協賛金 約300万円
他 飲料、クーポン、イベント出演 など

今後の課題と対応方針

協力を要請した地域の団体の多くが、趣旨に賛同し協力していただけた反面、協賛制度を含む協力体制が整備途上であったため、幅広く協力要請を行うことができなかった。また、年間を通じたクラブ運営に対しての協力体制の構築も課題となっている。さらに、今後の文化芸術活動を含めた競技・分野の拡充に向けてはより多様な団体等の協力が必須となる。次年度は、地域の吹奏楽団や市PTA連絡協議会等の各種団体との連携も強化を計画していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

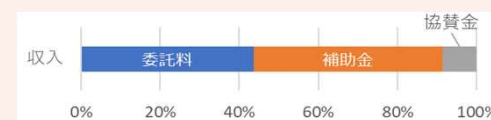
取組事項

学校部活動に参加している生徒や保護者が安心して地域クラブにも参加できるよう、部活動運営方針に準拠した『土浦市地域クラブ活動ガイドライン』を策定し、平日と休日の活動で生徒の負担が過多にならないよう配慮しながら地域クラブ活動を実施した。活動内容についても、競技志向だけに偏ることなく「楽しさ」と「学び」を大切に、将来に向けての多様な選択ができる環境が提供できるようにした。また、地域クラブ専用のコミュニケーションツールをシステム会社と共同開発しており、スケジュール確認や出欠確認メール等で保護者への安心感に寄与している。さらに、移動への負担軽減のため、会場を主会場のみ偏ることなく弾力的に運用することで、参加生徒が自力で活動場所に行ける機会の確保にも努めた。

クラブ活動の詳細

会員数	752 人 中途退会 24 人を含む (1年:3人 2年:2人 3年:19 人)	指導者数	指導員：114 人 ボランティア指導員：5 人 ボランティアスタッフ：3 人 救護指導員：4 人
延べ活動回数	735 回	延べ参加者数	14,619 人
具体的な内容	通常練習（基礎練習、実践練習など）・クラブ合同練習（基礎練習や交流試合） 練習試合（クラブ間や他自治体中学校等の部活動チーム） 大会参加 ※地域クラブ主催大会や一部の地方大会等		
参加生徒の声	○学校単位では人数が少なく、レベルの高い練習もできなかったため地域移行はよかった。 ○楽しかった。他校とスポーツを通して繋がることは大切だと思った。 ▲平日の部活とあまり変わらず地域クラブを行っているという実感が湧かなかった。 ▲初心者も楽しめ、身に付くような指導方法を考えてほしい。		
保護者の声	○指導者の質の高さに満足してるが、弟が入ったときも同じくらいのレベルで指導を受けたい。 ○指導者が複数いることや他校との交流は社会性を高めるのでよい活動環境だと思う。 ○来年部活は引退になりますが、地域クラブはその後参加可能なので受験勉強の合間に気分転換させてもらえたら嬉しい。 ▲一緒に活動する学校とのレベル差があり、レベルに応じた練習ができることを期待する。 ▲欠席の連絡方法をもう少し容易な方法にしたい。		
運営経費	クラブ運営経費として、指導者への謝金とクラブ活動用具等の消耗品費が継続的にかかる。また、大会への参加費、練習試合等の運営費などが都度、必要となるため、財源の確保が必要となる。		

令和6年度の収入内訳



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



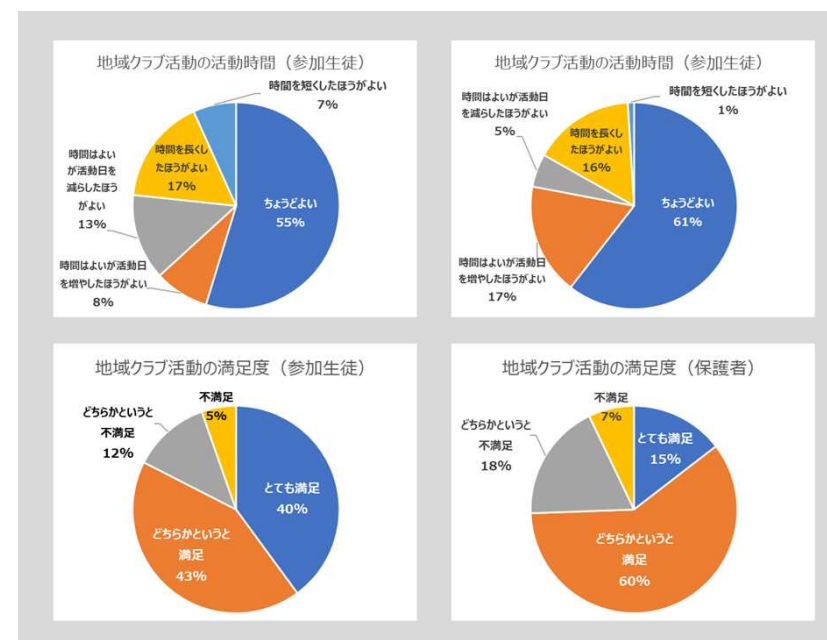
取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

地域クラブの活動は、現在は休日のみに限られるため、会員及び保護者対象のアンケートでは、「活動機会や時間を増やしたい」と感じる会員及び保護者が2割程度見られるものの、6割程度は「ちょうどよい」と回答しており、活動による負担が過多にならないように配慮することができている。また、同アンケートの満足度調査では、会員の8割以上が肯定的な回答をしており、活動の楽しさや他校生徒との交流、十分な活動時間の確保などを理由としている。保護者は会員に比べるとやや肯定的な回答が少なくなっているものの、やはり活動の楽しさと他校生との交流を主な理由としており、満足度の高い活動を継続することができたと考える。

コミュニケーションツールは、実際に運用しながら機能の改善・追加を行ってきた。出席・帰宅時の保護者へのメール送信機能は保護者にとっては安心して子どもを参加させられる機能であった。一方、連絡機能や会員及び指導者の管理機能等については改善が必要であるため、さらなる開発を検討していく必要がある。



今後の課題と対応方針

現在、クラブ活動に参加している生徒の中には、競技・種目、活動頻度などの選択はもちろん、活動内容についても競技志向とエンジョイ志向で異なるニーズの生徒が混在している。多様なニーズに対し、どこまで、どのように応える体制を構築していくのかについてはさらなる検討が必要である。また、中学3年生が引退せずに活動継続を選択できる環境は新たな価値となり

うるテーマであるため、プロジェクトの一つとして継続して体制整備に取り組んでいきたい。コミュニケーションツールは、必須となる機能について改善を加え実証を続けているが、より安心・安全なクラブ運営のサポートツールとして活用するためには十分に機能していない部分もあるため、システム会社と共同して開発を進めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

現在は、一部の部活動においての実証事業であるため、市から補助金や地域企業等からの協賛金を運営費に充てることで、受益者負担を一時的に免除し、実証ができるようにしている。また、次年度に向けては、新たな財源を確保するための協賛制度の基盤整備や各種助成金への応募等を行った。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

地域クラブ活動をスタートさせるためには、運営団体の体制整備が必須となる。主なイニシャルコストとしては運営団体の設立費用や事務局業務に必要となる機器や消耗品が必要であった。クラブ活動においても、ボールやビブス、マーカーなど多くの消耗品を揃える必要があるため、計画的・段階的な整備を進めていくことが大切となる。

■ランニングコストの分析

会員や指導者の管理、経理、スケジュール調整、連絡調整など事務局業務を行う職員の人件費の他、事務局消耗品や各種リース代、各種会場使用料が発生する。クラブ活動においても用具や救急用品等の消耗品は定期的に追加する必要がある。また、各種手続きやシステム利用等に係る手数料が大きな負担となる。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

年会費：2,000円程度
保険料、システム利用料、手数料等

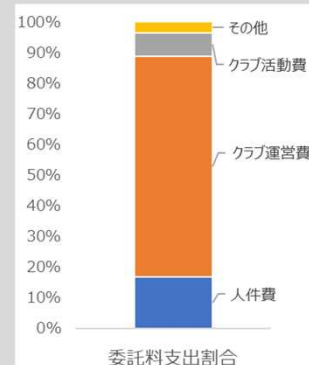
活動費：2,000円／月
指導者謝金や活動に係る消耗品費等

※上記金額は想定金額であり、今後の検証により変動する場合がある。

保険料は年間800円。指導者謝金は会員20人に対し2名の指導員で積算

左記試算額（想定額）をもとに実証事業を継続しているが、クラブ運営の実証を進めていると想定していなかった支出も多い。また、物価高騰及び最低賃金の引上げ状況等を考慮すると、事務局職員の人件費や指導者謝金も見直す必要があると考える。

収支バランス



現在は、受益者負担分を補助金により賄っており、収入の大部分は委託料と補助金となっている。委託料支出割合は、クラブ活動に伴う人件費、消耗品費より、実証事業として実施したイベント開催の支出がかなりの部分を占める形となっている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



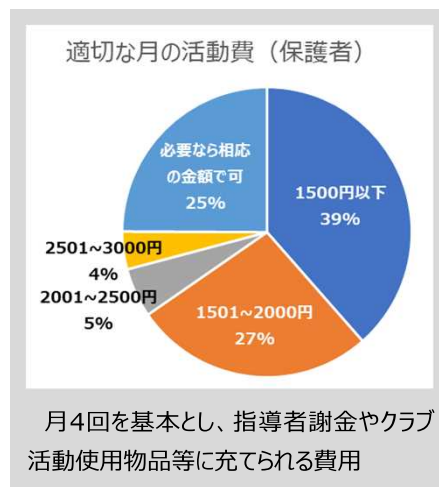
取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等 / キ：学校施設の活用等

取組の成果（カ）

地域クラブ活動の実証事業を進める中で、先行実施で取り組んでいる競技の学校部活動に参加している生徒及び保護者にとっては新たな対応に係って少なからずの負担を強いられている。そのため、受益者負担を免除することで9割以上の生徒が休日の地域クラブ活動に参加し、多くの検証に役立った。

受益者負担額について地域クラブ会員の保護者対象アンケートでは、低廉な会費を希望する割合が高い一方で、適切な活動環境を整えるために必要な費用は、受益者負担額として徴収することに賛同する意見も一定程度見られ、内容の質の確保と合わせた金額の設定が課題であることがわかった。



今後の課題と対応方針（カ）

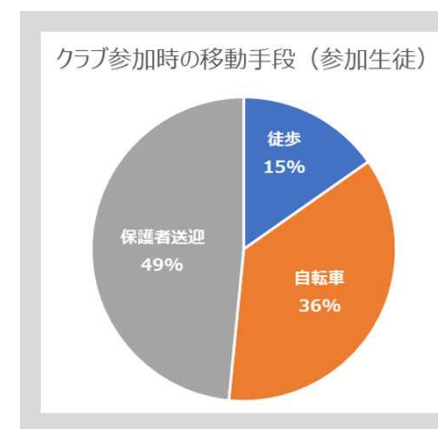
参加費用負担軽減には、適切な規模での市からの補助金を継続するとともに、学校部活動にかかっていた費用等の活用を含め、国や県からもバランスの取れた経済的支援が課題となる。

取組事項（キ）

学校部活動との連携・連動を意識して学校との連絡調整を行い、学校施設を学校部活動と重複しないように利用できるようにしたり、地域クラブと学校部活動でそれぞれ所有する用具等を共用したりした。

取組の成果（キ）

検証アンケートでは、活動場所が在籍する学校でなくなる場合の移動の負担が課題として見られるものの、学校との協力により優先的に使える活動場所を確保できたことで安定したクラブ活動につながった。参加生徒のアンケート結果から、4割の生徒が主な移動手段として自転車を利用することができていた。



今後の課題と対応方針（キ）

体育館及びグラウンドは比較的借用しやすいが、校舎施設設備を利用する際のセキュリティや管理体制については、設置者である市教育委員会が十分に検討し、対応方針を策定していかなければならない。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

実証事業2年目となり、重点地域に係る政策課題への取組と併せて幅広い取組を行うことができた。地域クラブ運営に関しては競技・種目は昨年度のままであるが、通年での実証により中学3年生の参加に係る課題や成果を確認したり、年度切り替えに係る会員・指導員の更新等、事務局業務の課題を明らかにすることができた。

また、地域クラブを支える体制の構築については、指導員の確保や学校部活動との連携・連動の面で学校と密な連携をとることで、多くの課題に取り組むことができた。さらに、イベント事業を通じて幅広い世代や団体との交流を進めたことは、地域への発信、協力要請につながり、保護者を含む地域住民に「部活動地域移行」について理解していただくとともに、地域企業や団体との新たな関係性の構築を実現し、今後に向けての大きなメリットとなったと考える。

未だ課題が山積する状況ではあるが、「子どもファースト」での持続可能な運営体制の構築のため、さらなる内容の充実を図りながら、行政・学校・地域が三位一体となった改革を推進していく必要がある。

●成果の評価

次年度からの追加競技を決定し、ロードマップを更新しながら段階的な地域移行を見据え改革を進めることができた。地域クラブでの指導を希望する教員の兼職兼業については、希望に応じて選択でき、現在の部活動顧問としての負担が軽減される仕組みが概ね整い、平日部活動との継続した活動環境を補完する人材確保に繋がっている。参加生徒や保護者へのアンケートでは、地域クラブ活動への満足度は高い割合となっているものの、多様なニーズに対応していくためには、さらなる課題への取組、環境整備が必要である。運営費用については、受益者負担額を適正な額に設定するとともに、自主財源を生み出す必要があると考えるが、持続可能な体制の構築のためには、長期的な国、県及び自治体からの支援も不可欠である。また、本実証事業では、委託契約期間の都合により年度末における年度更新事務や会員及び指導員の管理事務について検証することができず、独自に課題検証作業が必要となる。

●今後に向けて

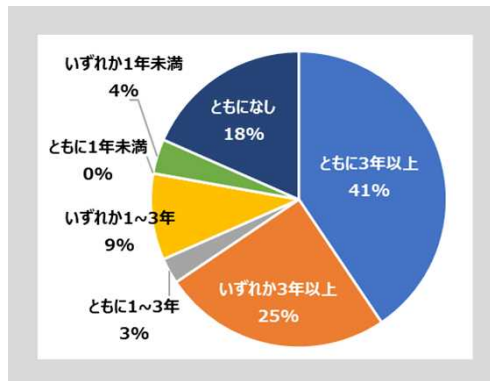
地域クラブの在り方を模索する中で、「新たな価値」をどのように創造していくかが重要であると強く感じる。「楽しさ」と「学び」を支える新たな価値の創造を目指し、持続可能なスポーツ・文化芸術活動の環境を一体的に整備していく必要があり、令和8年度に全部活動、休日地域クラブ移行を実現する目標に向けて、次年度は運営団体を一般社団法人化し、地域企業や団体からの協賛制度を確立するなど運営体制の基盤強化に努めていく。また、将来的にはさらに少子化が進むことが予想されるため、近隣自治体とも連携を図りながら地域クラブの運営を考えていく必要があると考える。

2.実証内容と成果

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（土浦市立学校部活動担当者対象）

Q.今年度担当している部活動における昨年度までの競技経験や指導経験は？



Q.学校部活動に対して負担と感じていることは？
※複数回答

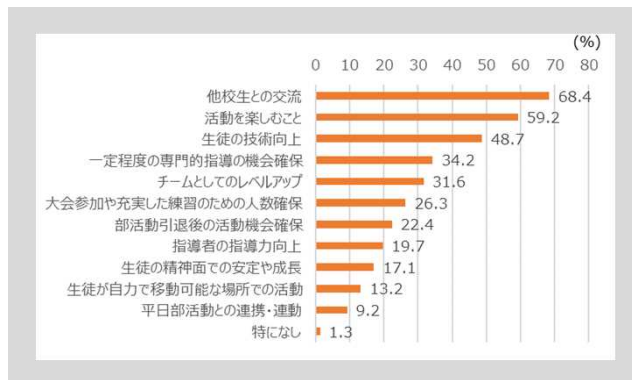


Q.学校部活動に関して課題と感じていることは？
※複数回答

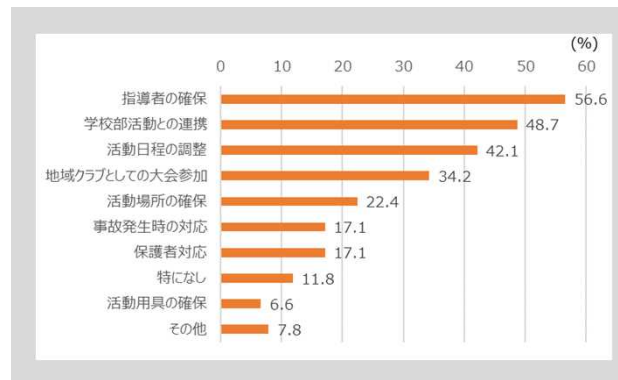


●アンケート結果（地域クラブ指導員対象）

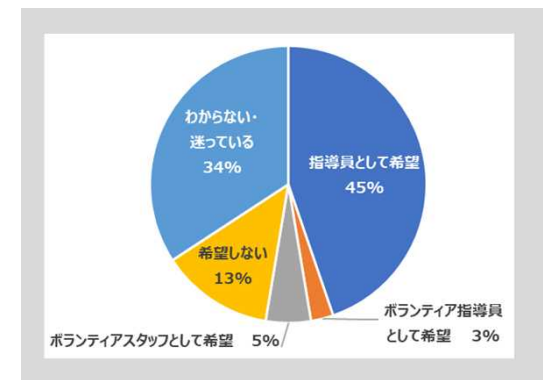
Q.地域クラブ活動における成果として感じていることは？
※複数回答



Q.地域クラブ「Blue Ocean」での指導にあたり、課題となっていることは？
※複数回答



Q.次年度も地域クラブ「Blue Ocean」の指導員として従事を希望しますか？



2.実証内容と成果

広報資料

昨年度より、地域移行の取組や地域クラブの活動についての周知拡大を図るために、年2回リーフレットを発行。市内小中学生全員に配付するとともに、関係機関や協力者等にも配付した。

※Vol.1、Vol.2 は令和5年度に発行済み

発行部数 11,000 部（A4 両面カラー）



【Vol.3 令和6年8月発行】



【Vol.4 令和7年2月発行】

【地域移行周知用リーフレット】

出典:土浦市地域クラブ活動推進協会

2.実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【地域クラブ活動（通常活動）】



【地域クラブ活動（夜間実証）】



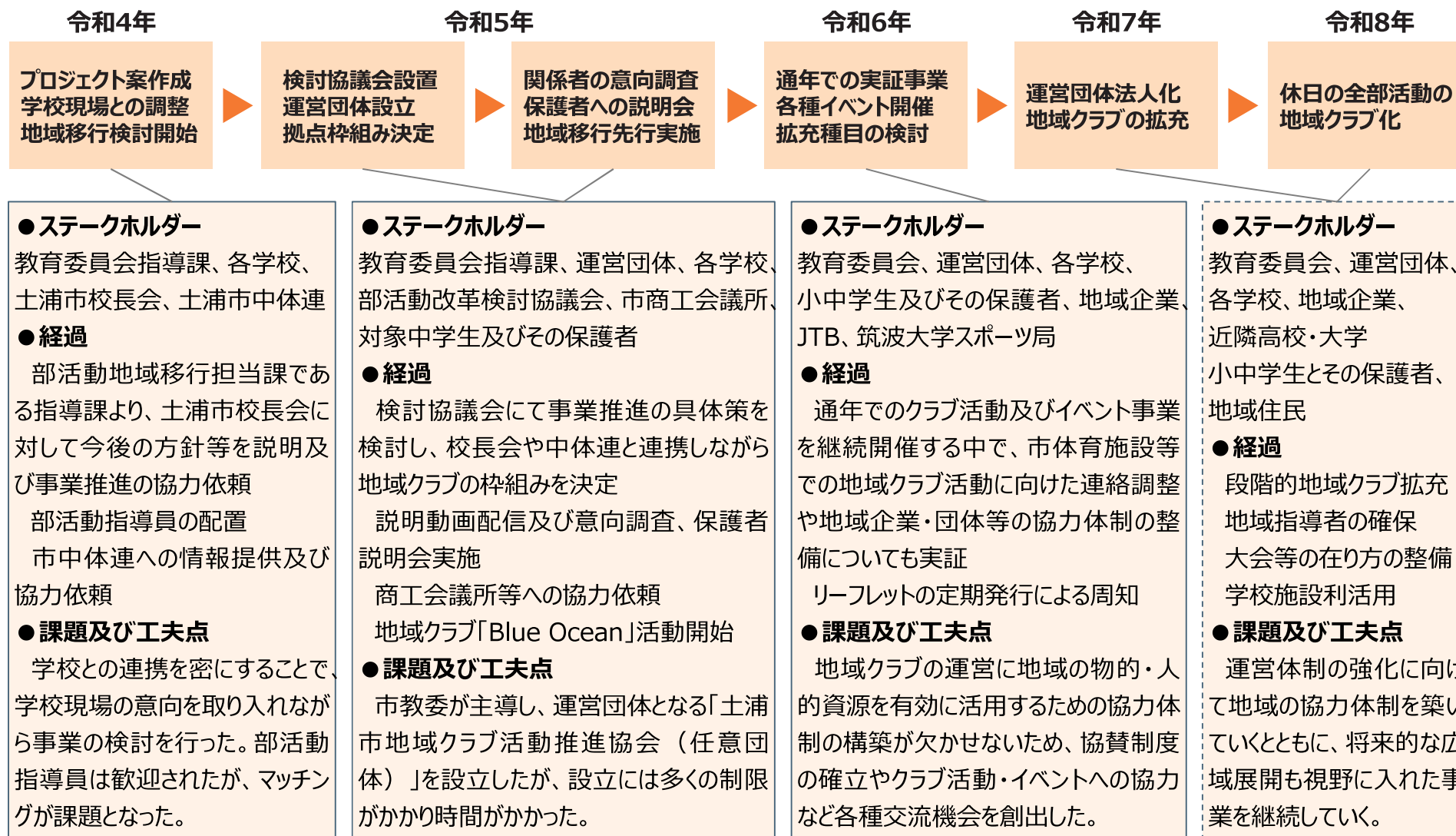
【クリニック講習会】



【スポーツフェス（多様な世代の交流）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

部活動地域移行に向けたロードマップ（R4～9年度）

土浦市教育委員会

